

第1回上京区基本計画策定委員会 摘録

日 時：平成21年7月2日（木） 午前10時30分～正午

場 所：上京区役所2階会議室

出席者：隴谷委員長，成瀬副委員長，粟津委員，安藤委員，出野委員，大井委員，桶谷委員，
小野委員，絹川委員，左近委員，高田委員，西川委員，山中委員，山本委員，吉川委員

欠席者：大串委員，加藤委員

事務局：北條区長，南区民部長，矢島総務課長，浅野まちづくり推進課長，河合まちづくり推進
課担当課長補佐，中川総務課担当係長，浅田京都市まちづくりアドバイザー，山崎地域
計画建築研究所員

次 第

1 委員の委嘱他

- (1) 委嘱状交付
- (2) 上京区長挨拶
- (3) 委員，事務局紹介

2 議題

- (1) 委員長，副委員長選任
- (2) 次期上京区基本計画について
- (3) 現行上京区基本計画の総括について
- (4) 上京区の現状と課題について
- (5) 次期上京区基本計画の構成案について
- (6) 部会の設置について
- (7) 今後のスケジュールについて

3 その他

内 容

【議題（1）委員長，副委員長選任】

委員長として隴谷委員，副委員長として成瀬委員を選出

【議題（2）～（4）】

（事務局より資料1～4を説明）

委員長

- ・現状と課題については切実な問題が現れている。特に自治については，人口を増やしていくことは根本的な問題なので，かなり強力に進めない限り，前には進めない。
- ・それと関連するのが地域振興の問題で，人口減少と高齢化については上京区でも長く課題となっている。これを乗り越えていかない限り，明るい将来を描きにくいと思う。

【議題（5）】

（事務局より資料5を説明）

委員長

- ・前回の基本計画から，多くのことが課題となっている。実感としては，いかに難しいことかを裏付けており，新しい要素も入っているが，可能なものから少しでも実現して消していかない

と、100年先でも同じような案件が掲出されるだろう。この点については、知恵を出して部会で検討してもらいたい。

委員

- ・現行計画の目次があるが、その中で特に問題点として挙げたことと、成果として何があったのか、きちんと過去の検証する必要がある。次期計画では、実現できることから書く必要がある。
- ・視点として、西陣中央小学校により桃園学区では人口が増えている。これは活性化の1つにつながっているのではないか。小学校に来るということは、働き盛りの世代が流入しているということであり、この様な動きとまちの賑わいと、どうつなげるかを考える必要がある。
- ・また、桜井公園の整備や、堀川にも水が通ったことで、多くの方が散策され、子供も集まっている。10年以上掛けて実現したが、やってよかったなど実感している。
- ・堀川は1つの観光資源と考えている。個人的には堀川の東側に路面電車を走らせるといった大きなプロジェクトを考えている。京都のまちづくりとして、目玉的に取り組めないだろうか。
- ・中小企業の振興については、特に、西陣織については、10年前の計画で位置付けたが、企業の数等はずっと少なくなっている。結果が出ないのであれば、初めからしなければよいという見方もできる。結果の出ることに集中した方が、話題性があって注目されるということもある。

委員長

- ・課題ばかりではなく、計画に基づき行ってよかったことを表記してほしい。そうしないと区民の皆さんも納得されないのではないか。
- ・前回の基本計画の総括については項目を絞り込んで行う必要がある。毎回同じような感じで、何が出来て、何が出来なかったのかが分かりにくい。
- ・資料については事前配布をしてほしい。

委員

- ・上京区には歴史遺産が多く残っており、それに魅力を感じている。1000年前と同じ場所の空気を吸っているという、ロマンがある。それを活かし、観光に結び付けていくことが重要ではないか。
- ・湯布院などでは、若い人から年配の方までアートを活かしたまちづくりを進めて賑わっている。上京区では学生を活かすことでそれが出来ないだろうか。
- ・高齢者が多いという点で、病院に勤務しているが、救急車をタクシー代わりに使っている人が多い。
- ・次期基本計画では、一人一人が上京区は変わったなど実感できる取組が必要である。

委員長

- ・「上京区の空気を吸いませんか」というキャッチフレーズは活かしたい。

【議題（6）～（7）】

（事務局より資料6～7を説明）

委員長

- ・来年11月以降のスケジュールはどのようになっているのか。実行につながるのか。

事務局

- ・区で主体的に策定するもので、計画策定後は、その計画に基づき各種事業を実行していくこと

になる。

- ・今回の計画では、その中で実行主体や計画期間などを具体的に入れていきたい。

委員長

- ・現計画でも部会を立ち上げて、進捗管理を行っている。
- ・策定委員会は、部会の議論を踏まえた上で、その内容について議論すると理解したらよいのか。

事務局

- ・その通りだ。

委員長

- ・部会の中に、部会長とアドバイザーとあるが、その関係はどのようになっているのか。

事務局

- ・明確な区別はしていないが、部会長は部会の議論の取りまとめを、アドバイザーはその支援を行うというふうに考えている。

委員長

- ・部会長とアドバイザーとの役割について明確にしておく方がよい。

委員

- ・まちの賑わいについては、若い人が集まって議論していただかないと良い知恵が生まれないのではないか。
- ・その時に、ボランティアとよく言うがそれでは長続きしない。若い人を集めるならば、経済的な支えが必要である。学生でも、ここで暮すことが出来る状況を創ることが重要である。そういう視点を入れる必要がある。
- ・無駄なお金は使わないように、事業を検証する必要がある。

委員

- ・これだけのメンバーが集まっていて実質的な討議が出来ていない仕組み自体に限界を感じている。
- ・資料の説明がほとんどで、発言を求められても情報武装ができていない中では意見を言いにくい。私がこの場にどういった貢献が出来るのか見極めることも出来ていない。
- ・こういう会議室の布陣は、私が会議を主催する時はしないし、私はこういう布陣は発言するなという意図を持って設定する。事務局が控えていて、資料がたくさんあるというのは、口を封じるためのものと理解した。
- ・従来の慣習を変えることを恐れずに、ノウハウは総合企画局にあるので、その辺りも含めて検討していただければと思う。

委員

- ・40代の方は共働きが多く、こういう会議に出てくる方は少ない。各学区で色々な役を担っていて、学区の中では意見を出されて活躍されているのと思う。そういう方の意見を聞く場を設けて頂ければと思う。
- ・もう少し若い年代の方は、ぜんぜん違う思考を持たれている。組織を嫌がられて、PTAの役でもなかなか決まらない。三部会に分かれて色々な検討をされるとのことだが、事業の内容だけでなく、これからの上京区を担う方にどのように動いてもらうのかといったことも含めて、議論していただきたい。

委員長

- ・ここに出てこられる方は、時間にゆとりのある方が来られている。生の声を聞こうと思うと、働いている方のことも考えて、夜の7時からが集まりやすいということであれば、その時間に設定して、徹底して議論することがあってよい。役所の時間で動くケースが多いので、配慮して欲しい。
- ・役所の項目を挙げるだけでなく、皆さんにとって実のあること、やってよかったと思えることを議論しなくてはならない。出来るだけ実のあるものとしたい。

委員

- ・吉川委員とともに京都市の総合企画局が行っている未来まちづくり100人委員会といって、148人の市民を集めて、京都市の未来像について議論しているが、その事務局を担っている。
- ・去年の9月以来、京都の将来について月に1度4時間～5時間煮詰めた議論をしている市民がいる。その中間報告書だとか、各13チーム議論のデータというのは、委員の皆さんの生の声に近いものがある。そのデータを報告することが役割の一つかと思っているので、今後、参考資料を事務局に届けたいと思う。

委員長

- ・若い人がどのように考えているのか吸い上げるような部会にすべきだと思う。実に近づくためには、実際にこれから動いていく方がどのように考えているのか知る必要がある。
- ・この会議では、出来る限り前に進むことを選ぶというのが私の趣旨であるので、そういう点では皆さんに忌憚のない意見をいただきたい。

以上、議論終了

【審議会・部会の運営について】

○若い人の意見の吸い上げや、意見を言いやすい雰囲気づくりなど、これまでとは違う運営を行って欲しい。

- ・若い人がどのように考えているのか吸い上げるような部会にすべき。
- ・これだけのメンバーが集まっていて実質的な討議が出来ていない仕組み自体に限界を感じている。従来の慣習を変えることを恐れずに、ノウハウは総合企画局にあるので、その辺りも含めて検討していただければと思う。

○部会長とアドバイザーとの役割について明確にしておく方がよい。

【計画の方向性について】

○誰にどのように担ってもらうのかということも含めた計画、事業内容とすべき。

- ・事業の内容だけでなく、これからの上京区を担う方にどのように動いてもらうのかといったことも含めて、議論していただきたい。

○一人一人が変わったなと実感できる、無駄の無い実行性の高く実りある計画とすべき。

- ・次期基本計画では、一人一人が上京区は変わったなと実感できる取組が必要である。
- ・結果が出ないのであれば、初めからしなければよいという見方もできる。結果の出ることに集中した方が、話題性がある注目されるということもある。
- ・役所の項目を挙げるだけでなく、皆さんにとって実のあること、やってよかったと思えることを議論しなくてはならない。
- ・無駄なお金は使わないように、事業を検証する必要がある。

○地域資源を活かした観光振興が考えられないか。

- ・上京区には歴史遺産が多く残っており、それに魅力を感じている。1000年前と同じ場所の空気を吸っているという、ロマンがある。それを活かし、観光に結び付けていくことが重要
- ・堀川は1つの観光資源と考えている。個人的には堀川の東側に路面電車を走らせるといった大きなプロジェクトを考えている。京都のまちづくりとして、目玉的に取り組めないだろうか。
- ・「上京区の空気を吸いませんか」というキャッチフレーズは活かしたい。

○地域の状況を踏まえた賑わいづくりが必要である。

- ・西陣中央小学校では人口増。働き盛りの世代が流入しているということであり、このような動きとまちの賑わいとをどうつなげるかを考える必要がある。

【現計画の評価について】

○課題ばかりでなく、成果についてもきちんと標記すべき。

- ・課題ばかりではなく、計画に基づき行ってよかったことを表記してほしい。そうしないと区民の皆さんも納得されないのではないか。

○何が出来て、何が出来なかったのか、端的に示すべき。

- ・前回の基本計画の総括については項目を絞り込んで行う必要がある。毎回同じような感じで、何が出来て、何が出来なかったのかが分かりにくい。
- ・特に問題点として挙げたことと、成果として何があったのか、過去の検証が必要。